

いと^{ひと}しき時代、いと^{ひと}しき音楽、いと^{ひと}しき女。

—— 人生の思い出にこの映画を ——



Illustration by S. MARUI

SÉLECTION OFFICIELLE • OFFICIAL SELECTION CANNES 1988

LES PORTES TOURNANTES

Réalisation: Francis Mankiewicz

Producteurs: René Malo, Francyne Morin

Scénario: Jacques Savole, Francis Mankiewicz. Image: Thomas Vamos

Music: François Dompière. Direction artistique: Anne Pritchard

Son: Bernard Aubouy. Montage: André Corriveau

Monique Spaziani. Gabriel Arcand. Miou-Miou

Jacques Penot. François Méthé

回轉扉

モニック・スパジャーニ/ガブリエル・アルカン/ミウ＝ミュウ/ジャック・ペノー/フランソワ・メテ/監督: フランシス・マンキウィッツ/製作: ルネ・マロ、フランシヌ・モラン/脚本: ジャック・サヴォア、フランシス・マンキウィッツ
撮影: トーマス・ヴァモス/音楽: フランソワ・ドンピエール/美術: アンヌ・プリッチャー/録音: ベルナル・オブイ/編集: アンドレ・コリヴォー/配給: アスキー映画株式会社 ASCII



回転扉

懐かしさと温かさに満ちた佳編。

映画が活動写真と呼ばれていた頃、欧米では、無声映画を上映する際に、ピアノや楽団がつきものでした。日本では、説明者(弁士)がわかり、画面と音楽と語りのライブ・セッション風の上映方式がとられていました。音楽が無声映画に果たした役割は、とても大きかったのです。

ヒロインは、町の活動写真館のピアノ伴奏者。映画なんて知らなかった若い娘が、「キートン映画」を見せられ、即興的に伴奏をつけるシーンは、今までの映画に描かれなかった珍らしい場面。私も思わず身を乗り出していました。大砲の音までピアノで出してしまうとは、何て器用！ 次第に映画の魅力にとりつかれ、町の「スター」となるシーク・エンズは、伴奏者と観客の関係を示していて興味深いものがあります。また、館の入口に見えるメアリー・ピックフォードの「嵐の国のテス」の文字やダグラス・フェアバンクスの「海賊」のポスターが無声映画時代の長閑な雰囲気を感じさせています。

澤登 翠さん(活動弁士)

映画によって人生を変えられた、ひとりの女。

ニューヨークへ流れてきたジャズピアニスト、セレスト。人生も黄昏にさしかかった今、もう長いこと会っていない息子のために、そしてまた今までの生涯を振り返るために、手紙や写真とともに日記をしたためた。しかし、その想い出の記録は、フローデルと10歳の息子アントワーズの生活にさざ波を立て、「回転扉」の扉は開かれる。

さて、彼女の波乱の人生とは……。時は、セピアな時代、1928年。活動写真に命を吹き込むのが仕事。娯楽の殿堂、映画館の伴奏ピアニストである。イメージを音楽として表現する魔術をマスターし、町の人気者に。しかし、トーキーの出現はピアノを映画館から一掃してしまう。その後、大金持ちと結婚。幸せにならなかったが、戦争ですべてを引き裂かれ……。

●1988年カンヌ映画祭「ある視点」部門正式出品作品

モニク・スバジャーニ

ガブリエル・アルカン/ミュウ=ミュウ

製作：ルネ・マロ、フランシーヌ・モラン

監督：フランシス・マンキウィッツ

1988年/カラー

配給：ASCIアスキー映画



映画がサイレントからトーキーに移る1920年代後半、ハリウッドの製作内幕を描いた傑作といえば「雨に唄えば」。本作ではその頃の映画館の周辺での出来事が、郷愁豊かに描かれています。主人公が映画館の伴奏ピアニストということもあり、当時の懐かしい名画の数々は楽しく、ルドルフ・バレンチノ主演「ボーケール」、D・W・グリフィス監督の「曲馬団のサリー」などが登場。特に、バスター・キートン監督・主演「キートンの将軍」での、汽車の疾走感を音楽で表現するシーンは見事。そして、トーキー時代の幕明けを告げた「ジャズ・シンガー」で伴奏ピアニストが失業し、社会問題を生んだのが驚えるのは、とても勉強になる。

ストーリーは時代に翻弄される女性の生きざまを中心に、私達の永遠のテーマである親子・夫婦という家族の絶ち難い絆を、過去と現在がくるくると、まるで回転扉で行きかう人のごとく描いていきます。家族それぞれに寄せる想いを、詩情溢れる映像で綴り、カンヌ映画祭でも万雷の拍手を浴び、多くの映画人が涙を浮かべていた姿は今でも語り草となっている小品です。耳を澄まし、目を澄まし、心を澄まして……この映画を感じてください。

また、主人公セレストがスターになりきる衣装は、カナダのアカデミー賞といわれるジェニー賞を獲得。なかなか凝っている。製作はフランスとカナダの合作であるが、フランス語圏ケベック州の映画ということもあり、極めてヨーロッパ的色彩が強い。

キャストはモニク・スバジャーニ、ガブリエル・アルカンといったカナダのスター、フランスからは「読書する女」のミュウ=ミュウが華を添えている。監督は叔父さんが「イヴの総て」でオスカー受賞のジョセフ・L・マンキウィッツというフランシス・マンキウィッツ。

(上映時間：1時間40分)



10月中旬ち都内独占ロードショー

特別鑑賞券1400円発売中/
(当日一般1700円/学生1400円の処)

■劇場窓口で特別鑑賞券をお買い上げの方に特製ポストカード(黒い瞳、ピアニスト、回転扉)をプレゼントいたします。

銀座三越先・歌舞伎座手前 03(3561)4660

銀座シネパトス

連 日 12:50 2:50 4:50 6:50